

00	09	03	002	永年保存	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	事務局長	次長	主査	主査	担当	文書取扱主任							

第1回 新滝川市活力再生プラン調査等特別委員会 会議録

開催年月日	平成20年7月9日（水曜日）	開会：13時29分	閉会：15時06分
開催場所	第一委員会室		
出席委員	山腰、荒木、窪之内、酒井、関藤、本間、山口、大谷堀、議長、委員外議員～水口	事務局	中嶋事務局長
欠席委員	なし		田湯次長
説明員	別紙のとおり		寿崎主任主事
議件	別紙のとおり		
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について		
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行いすべて報告済みとした。		
	(1) 現タッグ計画の策定事情について		
	(2) 現タッグ計画のフレームと主な改革について		
	(3) 現タッグ計画の財政目標と財政推計について		
	(4) 滝川市の行財政を考える市民会議について		
	(5) 市民会議による進捗状況の評価と意見について		
	(6) 新タッグ計画のフレームについて		
	2 その他について		
	なし		
	3 次回委員会の日程について		
	正副委員長に一任することに決定した。		
上記記載のとおり相違ない。 新滝川市活力再生プラン調査等特別委員長 山腰修司 印			

平成20年7月8日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

新滝川市活力再生プラン調査等特別委員会への説明員の出席について

平成20年6月26日付け滝議第57号で通知のありました新滝川市活力再生プラン調査等特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

総務部長	高 橋 賢 司
総務部総務課長	伊 藤 克 之
総務部総務課副主幹	佐 藤 之 俊
総務部総務課主査	小 畑 力 也
総務部企画課副主幹	田 中 嘉 樹
総務部企画課主査	柳 圭 史
総務部財政課長	吉 井 裕 視
総務部財政課主査	景 由 隆 寛
総務部行政経営課長	五十嵐 千夏雄
総務部行政経営課副主幹	浦 川 学 央

(総務部総務課総務グループ)

第1回 新滝川市活力再生プラン調査等特別委員会

H20. 7. 9 (水) 13時30分
第一委員会室

(正副委員長就任あいさつ)

○ 開 会

○ 委員動静

1 所管からの報告事項について

- (1) 現タッグ計画の策定事情について
- (2) 現タッグ計画のフレームと主な改革について
- (3) 現タッグ計画の財政目標と財政推計について
- (4) 滝川市の行財政を考える市民会議について
- (5) 市民会議による進捗状況の評価と意見について
- (6) 新タッグ計画のフレームについて

(資 料) 行政経営課
(資 料) 行政経営課・総務課
(資 料) 財 政 課
(資 料) 行政経営課
(資 料) 〃
(資 料) 〃

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

第1回 新滝川市活力再生プラン調査等特別委員会

H20. 7. 9 (水) 13 : 30～

第 一 委 員 会 室

開 会 13 : 29

正副委員長、就任挨拶をする。

委員動静報告

委 員 長

全員出席。議長出席。委員外議員～水口。最初にこの委員会設置について総務部長より挨拶がある。

高橋部長

第1回特別委員会開催に当たり、一言挨拶を申し上げたい。平成16年に合併破綻したわけだが、当時私は合併協の税財部会長を仰せつかっていた。事務局長もそうだと思うが、7月下旬の暑い会場を滝川の合併協の委員さんが退場する場面が脳裏に焼きついており、時々フラッシュバックでよみがえる。いずれにしても滝川市としてはやむを得ない判断だったと思う。またそれぞれの町が当面自立の道を歩む方向をとった時期でもある。現プランは平成16年10月から着手をして翌年3月に策定するという半年の期間だったが、予算の関係等からすると1月くらいが限度だった。そういう時間のない中、特別委員会を設けていただいたり、市民会議を設けたりしたが、事務局主導ということで翌年3月に策定できた。時間のない中やむを得なかったとは思いますが、その点は当時の反省であり、今後のあり方に生かしたいと思っている。現タッグ計画は6年間の策定をしており、平成22年度からは基金繰り出しをしない単年度黒字を目指そうと計画を立てた。ところが、骨太方針や交付税削減等があり、入る部分は相当激減している状況である。ただ現タッグ計画の成果はあると思っている。2年ほど前から財政収支見通しの中で平成22年度単年度黒字が厳しいという見込みを持っており、乖離がどんどん広がっていくことから、昨年再度計画を見直す判断をし、10月に市民会議を立ち上げた。約40名の委員で3つの部会を設け、各5回ずつ部会を開催し、全体会議は3回開催した。その中ではタッグ計画の進捗状況等々の見直しをしていただきながら、次期計画への意見というものもまとめていただいている。やはり財政乖離の拡大ということで、持続ある財政にするには大きなさらなる改革が必要との判断をした。現在のところは新たな財政収支見込みに基づいて、市の各部で見直し改善案を検討している状況であり、私どもも期間をもって取り組む決意をしている。委員の皆さんからの活発な議論、意見をお願いしたいと思う。失礼だとは思いますが、持続ある滝川市を築くためにともにプランをつくる気持ちで提案をいただければありがたい。今後ともよろしくお願い申し上げる。

委 員 長

新タッグ計画策定スケジュールが配付されている。説明願う。

五十嵐課長

(別紙資料に基づき説明する。)

1 所管からの報告事項について

委 員 長

(1)から(6)まで一括説明願う。

(1) 現タッグ計画の策定事情について

五十嵐課長

(別紙資料に基づき説明する。)

(2) 現タッグ計画のフレームと主な改革について

五十嵐課長

(別紙資料に基づき説明する。)

伊藤課長

(別紙資料に基づき説明する。)

(3) 現タッグ計画の財政目標と財政推計について

吉井課長	(別紙資料に基づき説明する。)
	(4) 滝川市の行財政を考える市民会議について
浦川副主幹	(別紙資料に基づき説明する。)
	(5) 市民会議による進捗状況の評価と意見について
浦川副主幹	(別紙資料に基づき説明する。)
	(6) 新タッグ計画のフレームについて
浦川副主幹	(別紙資料に基づき説明する。)
委員長	説明が終わった。当委員会として付託された調査等をどのように進めていったらいいか総務部長のほうで何か案はあるのか。
高橋部長	特段案はない。
委員長	限られた期間であり、市民会議の皆さんが精力的にやってきた結果も出ている。膨大な内容になるので、今後委員会でどのように調査を進めていったらいいか意見を伺いたい。休憩する。
	休 憩 14 : 35
	再 開 14 : 54
委員長	再開する。(1)から(6)について質疑はあるか。
本 間	資料5の財政関係について確認をさせていただきたい。2ページと3ページの地方交付税について予定より交付税が下がったとの説明だったが、資料4の現行タッグ計画における財政計画の数字を当てはめると、22年度まではほとんど変わらない。むしろ現状のほうが多い部分もある。歳出を見ると、人件費も公債費も予定どおりの数字であり、建設事業費が思っていたより多い状況である。タッグ計画において未達の部分があったとしても、何がおかしかったのかもう少し分析した上で報告をさせていただきたい。5ページでは退職手当組合負担金3年に1度の精算となっているが、これは予定どおりのことと思われる。こういったことをやたらと書いてあるが、それを知らなかったということにはならない。計画どおりにいかなかった点について何かあれば説明願う。
景由主査	交付税の総額は、ほぼ変わらない。交付税の中には公債の措置額が含まれており、ここに病院や下水道関係が入っている。総額で見ると変わらないが、基本部分と償還に対する部分に分かれており、基本部分は減っている。病院改築について新たに措置額を見込んでいるので、交付税総額でとらまえると変わらないような結果になる。この示し方ではわかりづらい部分があった。
本 間	19年度決算見込みとタッグ計画における19年度を考えると、腑に落ちないところがある。5億円赤字になっているというが、タッグ計画の数字どおりのようにも見える。その辺を次回でいいので、わかるようにしていただきたい。何がどうなってこうなるのかを示していただきたい。
委員長	他に質疑はあるか。
窪之内	実は交付税算入分を全額他会計に繰り入れしない計画になっていることを知らなかった。病院が繰り入れされていないのは知っていたが、下水道がそういった形になっているのは、当時説明がなかったと思う。重要なことだと思うので、こういった点についてはきちんと説明をしていただきたい。例えば、図書費は交付税算入を全部入れていないということなので、そうすると教育費はどうなっているのだろうと疑問も出てくる。ここで示されていることだけなのか。退職組合部分を抜かしても人件費は総体で、当初計画より3億数千万円マイナスだと思うが、タッグ計画の見通しがなぜ達成できなかったのかがわからない。その辺をもう少しわかるように説明願いたい。1年目はタッグ計画より進んで

いるのではないかと思っていた。先ほどの説明では2年前から達成できないのではないかと思っていたというが、タッグ計画を立ててもまた狂うようなものではだめだと思う。どこに問題があったのかももう一度きちんと明らかにすべきだと思うので、その辺についても新たに説明をお願いしたい。

高橋部長

交付税だけを見ると余り差がないが、その交付税の性格が大幅に変わってきている。例えば、一般財源化により国庫支出金を落として、交付税に入れるという形である。交付税は総額23兆円から15兆円まで現実に落ちている。国庫支出金も落ちている。例えば、国と道の負担金が保育料関係で2億7,000万円くらい入っていたが、それが一般財源化により交付税に入った。交付税はほかの要素でどんどん削られている。余り変わらないものになっているようだが、国庫支出金で落ちた2億7,000万円はどうしてくれるのかということである。その辺もわかるような資料を示せるようにしたい。

委員長

次の委員会までに今言われたような資料をお願いしたい。ほかに資料要求や質疑はあるか。(なし)

(1)から(6)について報告済みとする。

五十嵐課長

確認させていただきたい。改善案が25日までに各所属から集まってくる。通常だと市民会議に出し、意見をいただき、市の案をつくってからこの委員会へ報告というのがルートだと思う。ただ、そうすると案が固まってしまう議論の余地がなくなるのではないかという意見も先ほどあった。市役所内部でも議論はするが、市民会議にもかけ、委員会にもかけて両方の意見をいただいた上で市の案をつくり、再度委員会で議論をいただくのがいいのか、あるいは通常のルートでやったらいいのか。

委員長

計画案なので、案を提示されてその案がよければ何も議論はないし、悪ければ意見が出てくる。改善案を求めることもある。テーマも決まっていて、委員もそれぞれ考えるところがある。余り難しく考えないでほしい。

2 その他について

委員長

何かあるか。(なし)

3 次回委員会の日程について

委員長

正副委員長に一任願う。おおよそだが、7月末か8月初めでよいか。(よし)
以上で第1回新滝川市活力再生プラン調査等特別委員会を閉会する。

閉 会 15:06